

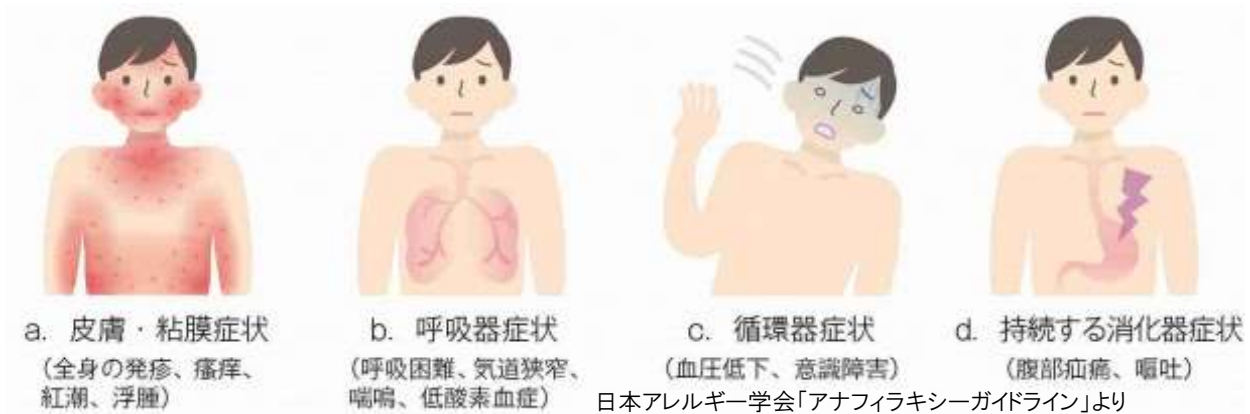
## 新型コロナワクチンについて その3 ～アナフィラキシーって何？～

一般社団法人 小金井市医師会

本邦では2月17日から医療従事者の新型コロナワクチン先行接種がはじまりました。開始後連日「アナフィラキシー何件！」という報道がなされ、「想定されていたより多くない?!日本人は出やすいの?!」と不安に思われた方も多いのではないかと思います。実際のところはどうなのでしょう?今回はアナフィラキシーについて解説します。

### 1. アナフィラキシーとは

アナフィラキシーとは、命にかかわりうる重いアレルギー反応です。アレルギーの原因となりうるものに対して、急速に以下の症状のうち2つ以上が出た場合にアナフィラキシーと診断します。



実はアナフィラキシーの診断には、「ブライトン分類」(右図)というより詳細な国際基準があります。

右の図をぱっと見ていただくとわかるとおり、上の図に比べてかなり複雑です。国際的には、各国同じ基準で評価して比較できるようにこのような決まりのつとって診断しており、ブライトン分類レベル1-5のうちレベル1-3をアナフィラキシーとして報告します。(字が細かくて申し訳ありませんが、複雑なんだなということがわかっていたいただければ大丈夫です。)

ブライトン分類におけるアナフィラキシーの症例定義		
レベル	基準	
必須基準	<b>突然性の発症</b> <b>数秒および症状の急速な進行</b> <b>2つ以上の多臓器の症状</b>	
レベル1	1つ以上のメジャー-皮膚症状および1つ以上のメジャー-循環器症状 (または/および/1つ以上のメジャー-呼吸器症状)	
レベル2	2-1	1つ以上のメジャー-循環器症状および1つ以上のメジャー-呼吸器症状
	2-2	1つ以上のメジャー-循環器症状 (または1つ以上のメジャー-呼吸器症状) および1つ以上の異なる臓器 (循環器および呼吸器は除く) で1つ以上のマイナー-症状
レベル3	3-1	1つ以上のメジャー-皮膚症状および1つ以上のマイナー-循環器症状 (または/および/1つ以上のマイナー-呼吸器症状)
	3-2	1つ以上のマイナー-循環器症状 (または呼吸器症状) および2つ以上の異なる臓器/分類から1つ以上のマイナー-症状
レベル4	十分な情報が得られておらず、症例定義に合致すると判断できない	
レベル5	アナフィラキシーではない (診断の必須条件を満たさないことが確認されている)	
臓器	メジャー-症状	マイナー-症状
皮膚/粘膜症状	<input type="checkbox"/> 全身性発疹もしくは全身性紅斑 <input type="checkbox"/> 血管浮腫 (遺伝性ものを除く)、顔面もしくは全身性 <input type="checkbox"/> 喉頭を伴う全身性浮腫	<input type="checkbox"/> 痒疹を伴わない全身性発疹 <input type="checkbox"/> 全身がちくちくと痺る感覚 <input type="checkbox"/> 痒痒性皮膚炎 <input type="checkbox"/> 腫脹性皮膚炎
循環器症状	<input type="checkbox"/> 測定された血圧低下 <input type="checkbox"/> 末梢性ショックの臨床的診断 (以下の3つ以上) ・頻脈 ・毛細血管再充満時間 (3秒より長い) ・中枢性脈拍微弱 ・意識レベル低下もしくは意識消失	<input type="checkbox"/> 末梢性循環の減少 (以下の2つ以上) ・頻脈 ・血圧低下を伴わない毛細血管再充満時間 (3秒より長い) ・意識レベルの低下
呼吸器症状	<input type="checkbox"/> 高音性の喘鳴 (気管支狭窄) <input type="checkbox"/> 上気道性喘鳴 <input type="checkbox"/> 上気道閉塞 (口唇、舌、喉、口蓋垂、喉頭) <input type="checkbox"/> 呼吸窮乏 (以下の2つ以上) ・過呼吸 ・補助的な呼吸器の使用増加 (胸鎖乳突筋、肋間筋など) ・陥没呼吸 ・チアノーゼ ・喉音発生	<input type="checkbox"/> 持続性乾性喘鳴 <input type="checkbox"/> 喘鳴 <input type="checkbox"/> 喉頭閉塞感 <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水 <input type="checkbox"/> 喘鳴もしくは上気道性喘鳴を伴わない呼吸困難
消化器症状	-	<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 悪心 <input type="checkbox"/> 腹痛
臨床検査	-	<input type="checkbox"/> 通常の上肢以上の総白血球トリパーゼと高

アナフィラキシーは時に命にかかわるので、対応は一刻を争います。  
アナフィラキシーを疑う症状が出た際に、医師が「えーっとこれはブライトン分類にあてめると…」とやっていると対応が遅れてしまいます。通常の診療では一番上の図の症に基づいて判断し、迅速に治療していきます。



ワクチン接種後にアナフィラキシーを疑う症状が出た際は、医療機関から医薬品医療機器総合機構(PMDA)という厚生労働省所管の機関に報告します。今回 PMDA に報告されたのは、あくまで症状から「アナフィラキシーを疑った症例」であって、ブライトン分類に基づいて「アナフィラキシーと確定された症例」ではありません。実際厚労省の審議会が報告された 17 例を検討したところ、ブライトン分類レベル 1-3 に該当しアナフィラキシーと診断が確定された症例は 7 例のみでした。

政府は当初速やかな情報提供を優先し、審議会で検討する前に公表していました。しかし疑い症例があたかも確定症例であるかのように報道されるなど、かえって混乱を招きました。現在は、国際的な基準に基づいて専門委員が評価し審議会で検討を行った後に公表する、という方針に変更しています。

## 2. アナフィラキシーはどれくらいの頻度でおこるの？

新型コロナワクチンのアナフィラキシーの発生頻度は、本邦で承認されているファイザー・ビオンテック社のワクチンが 100 万人に 4.7 人、同じ mRNA ワクチンであるモデルナ社のワクチンが 100 万人に 2.5 人と報告されています。いずれの方も適切な初期対応により回復しています。これまでに新型コロナワクチンが原因で亡くなった方は出ておりません。インフルエンザワクチンは 100 万人に 1.4 人でそれよりは多いですが、抗菌薬(抗生物質)では 100 万人に 400 人、ロキソニンやボルタレンなどの解熱鎮痛剤では 100 万人に 1300 人です。決して新型コロナワクチンでアナフィラキシーが出やすいわけではありませんのでご安心ください。

## 3. 最後に

新型コロナワクチンはすでに世界で 4 億人に接種されており、有効性と安全性のデータが公表されています。一方新型コロナウイルスに感染すると命を落とすこともあり、回復しても様々な後遺症が残ることもあります。ワクチン接種が普及してウイルスの流行がおさまっていけば、元の生活に戻れる日も近づくでしょう。いずれにしてもゼロリスクはありませんが、どちらを選ぶほうがメリットがあるかよく検討していただければと思います。

### 新型コロナウイルス感染



国内感染者

45万人/1億2500万<sup>※1</sup>

0.36%

**致死率2~3%**

回復しても倦怠感、味覚嗅覚障害、脱毛などの後遺症が残ることもある

### 新型コロナワクチン接種



アナフィラキシー

4.7人/100万人<sup>※2</sup>

0.00047%

治療で**全員回復**

小金井市では 40 以上の指定医療機関と 2 か所の集団接種会場でワクチン接種を行います。アナフィラキシーの発症は多くが 15 分以内ですので、接種後 15 分間待機していただきます。過去に食品や医薬品に対してアナフィラキシーをおこしたり、他のワクチン接種でアレルギー反応が出た方は、30 分間待機となります。医療機関はもちろんのこと集団接種会場でも、万が一アナフィラキシーが起きた際すぐに対応できるよう万全の準備をしております。どうぞ安心して接種にいらしてください。

こちらをあわせてご参照ください。

「こびナビ」[https://covnavi.jp/category/faq\\_public/](https://covnavi.jp/category/faq_public/)

「新型コロナワクチン公共情報タスクフォース」<https://medicalnote.jp/covid19-vaccine/>